

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-141	13-324	慶應義塾大学
題名 (原題/訳)		
Prescribing thiamine to inpatients with alcohol use disorders: how well are we doing? アルコール摂取障害の入院患者に対する処方するチアミン治療：どれくらいよく使用しているのか？		
執筆者		
Isenberg-Grzeda E1, Chabon B, Nicolson SE		
掲載誌		
J Addict Med. 2014 Jan-Feb;8(1):1-5.		
キーワード		
チアミン、ヴェルニッケ - コルサコフ症候群、アルコール摂取障害		
要 旨		
<p>目的</p> <p>チアミン欠乏は、アルコール摂取障害 (AUDs) の潜在的で危険な後遺症である。ヨーロッパおよび英国のガイドラインは、ヴェルニッケ - コルサコフ症候群 (WKS) のようなチアミン欠乏の結果を回避するために毎日 3 回の高用量非経口チアミンを投与することを勧めており、伝統的なチアミン投薬量がおそらく不十分であることを示唆する。チアミンと WKS の研究は米国において遅れており、現在まで、チアミンがどのように米国の病院で AUD の入院患者に処方されるかを調べた研究はなかった。</p> <p>方法</p> <p>チアミン処方するデータ (量、ルートと頻度予定) は米国の大きい教育研修病院に AUD のための中毒精神医学サービスに紹介された入院患者より集められた。データは、Statistical Product と Service Solutions を使用して分析された。</p> <p>結果</p> <p>AUD をもつ合計 217 人の入院患者が含まれた。それらの相当なパーセンテージで、チアミンは処方されていなかった。チアミンを処方された人々の、ほとんど全ては伝統的な投薬量 (高リスク患者を含む) を経口的にチアミンを処方されていた。</p> <p>結論：</p> <p>これは、アメリカの教育研究病院で AUD での入院患者にチアミンを処方することについて報告する最初の研究である。それは、多くの人々が疑っていたことを確認するのに役立つ: WKS の診断上の課題、WKS の危険因子の検出と WKS の予防と治療のためのチアミンの十分な投薬を改善するために、より多くの教育が必要である。</p>		